

gurica II. S. 95)。

〔五三〕 Sine-usu 碑文に ozmis と記する。

〔五四〕 舊唐書王忠嗣傳、新唐書突厥傳、通鑑天寶元年の條等に據る。

〔五五〕 次篇第三八一頁補註④參看。

〔五六〕 注〔五二〕*參看

〔五七〕 遣使以下のことは冊府元龜には天寶五載のことと記さる。

〔五八〕 Schlegel は之を七四五年即ち天寶四載のこととせり、これ邊裔典が新唐書の回鶻傳を其の儘に取り、「後三年」を以て天寶四載とせるに據れるに外ならず。

〔五九〕 唐が裴羅を封じて奉義王とし、又懷仁可汗に冊するに至りし年月に就きては諸書一致せず、唐會要は奉義王に封じたるを天寶三載とせるが、舊唐書及び冊府元龜は天寶の初のこととし、懷仁可汗に冊したることに就きては、新唐書は奉義王に封じたと同年中の記事に收め、舊唐書もこゝに引ける所に見ゆるが如く、亦三載のこととせるが如くなるに、唐會要及び冊府元龜繼襲篇には五載のこととせり、通鑑は元年に爵奉義王を賜ひ、三載懷仁可汗に冊せりとしたれ共、其の元年十二月の條に付せる考異に引ける唐曆には、共に之を三載のこととせり、今此等の何れが正しきかを確かに定むべき方法は無けれども、元年に裴羅が使を遣したる時は、未だ拔悉蜜の下に葉護たる時に過ぎざれば、奉義王の爵を賜ひたるは、寧ろ三載に拔悉蜜を倒し、自ら可汗と稱し、使を遣したる時なりしなるべく、其の後其の位置の確立したる五載に至りて初めて懷仁可汗に冊したるものなるべきか。

〔六〇〕 一八八頁に引ける新唐書葛邏祿傳參看。

〔六一〕 次篇三八四頁參看。

〔六二〕 通典には廻紇は「距長安萬六千九百里」と記し、同羅は「去長安萬七千五百里」と記し、唐書の記載と大に異れど Selenga 河域の地が長安を去ること萬六千九百里とは信ず可らざることにして、之に就きては唐書の記載を正確と見ざ